

❀ 毎月23日は「福岡市 子どもと本の日」です ❀

～ 子どもの読書活動を推進しましょう ～

□ 読書週間がはじまります

10月27日（金）から11月9日（木）の2週間は、第71回読書週間です。今年の読書週間のテーマは、「本に恋する季節です！」です。

この読書週間は、終戦まもない1947年（昭和22年）、「読書の力によって、平和な文化国家を作ろう」という決意のもと、出版社や書店、公共図書館や新聞・放送のマスコミ機関も加わって、第1回『読書週間』が開催されました。当初の期間は11月17日から11月23日までの1週間でした。翌年からは期間も10月27日～11月9日（文化の日を中心にした2週間）になり、やがてこの運動は全国に広がっていきました。

2005年7月に施行された「文字・活字文化振興法」で、読書週間の1日目の10月27日を「文字・活字の日」としました。

福岡市では、平成17年に「福岡市子ども読書活動推進計画」、平成23年に「福岡市子ども読書活動推進計画（第2次）」を策定しました。そして、今年2月には、「福岡市子ども読書活動推進計画（第3次）」を策定し、家庭・地域・学校・図書館を中心に、関係機関や団体と連携しながら、創意ある取組みを推進しています。

「宝島」の海賊たちが盗んだ財宝よりも、本には多くの宝が眠っている。
君たちは、人生のすべての日々において、その宝を味わうことができるんだ。

ウォルト・ディズニー（1901～1966）

「福岡市子ども読書活動推進計画（第3次）」の「はじめに」のページに掲載している文章より
（今までの読書週間のポスター）



（今年の読書週間のポスター）



（第1回読書週間ポスター）



（第10回読書週間ポスター）



（第30回読書週間ポスター）



（第50回読書週間ポスター）

読書週間の取組み例を紹介します

読書週間に合わせて学校でも読書週間を設定し、いろいろな取組みをしています。

そこで、今年読書週間では、子どもたちの読書量を増やすとともに、読書が物語や小説だけでなく、詩や伝記など他の分野にも広がるような取組みをしてみてもいいでしょうか。

《読書週間の取組み例》

☆ 読書量を増やす取組み



① スタンプカードの活用

専用のスタンプカードを準備します。貸出図書の返却の際、本一冊につきスタンプ一個を押します。スタンプの個数に応じてプレゼント（お手製のもので構いません。）や借りられる本の冊数が増える等の特典を与えます。（集会などで表彰するのも良いでしょう。）

② 読書クイズ

A5 ぐらいの紙に「本」にまつわるクイズを記入し、封筒に入れます。子どもたちに封筒を選ばせ、中に入っているクイズの答えを図書館で本を探して見つけます。

（クイズの例）

- ・物語の一節（子どもたちが親しんでいるもの）を記し、書名を答えてもらう。
 - ・登場人物の名前を記し、その人物がでてくる書名を答えてもらう。
 - ・人気のある作家だが、子どもたちにはあまり知られていない作品の一節を記し、作者名を答えてもらう。
 - ・子どもが知っている本を記し、主人公が飼っている犬の名前を答えてもらう。
- 他にも、物語の内容に関する質問等、いろいろ作れるのではないのでしょうか。
- さらに、①の活動例と連動し、正解者にはスタンプを押印することもできます。

③ 先生方によるおすすめ本の紹介

先生方で子どもたちにすすめたい本を学校図書館で選び、所定のカードにおすすめのポイントを書き（POPの感覚で）、そのカードを該当の本の表紙に添付し、図書館内に設けた特設コーナーに展示します。

※カードに先生の似顔絵や顔写真をそえると、子どもたちは一段と興味を持って眺めるでしょう。

④ 先生方によるブックトークや読み聞かせ（「お話しレストラン」の形式で）

先生方で各自のお気に入りの本について、その本にまつわる思い出を話したり、読み聞かせをしたりします。

※どの先生が、どの部屋で、何の本を読むのか、「お話しレストラン」のように、事前にメニュー表を配布、もしくは学級に掲示することが必要です。



☆ 読書の幅を広げることにともながりやすい取組み

⑤ 給食時間中の放送の活用例その１・・・ＣＤを活用した名作紹介の時間

著名な俳優が名作を朗読したＣＤが、福岡市総合図書館にあります。ＣＤは、金子みすゞの詩や宮沢賢治の作品などいろいろあります。こうした音源を活用し、給食時間の放送で流します。

⑥ 給食時間中の放送の活用例その２・・・おすすめ本の紹介

図書委員や放送委員がおすすめの本を紹介します。

※おすすめ本の原稿については、図書委員、先生、地域の方など、学校関係者に幅広く依頼すると良いでしょう。

⑦ ビンゴカード

学年に応じたビンゴカードを１人１枚配布します。国語の教科書に紹介されている本や読んでほしい本、学校司書のおすすめ本を☆印で載せ、読んだら印に色を塗ります。それ以外の本を読んだ場合は、空欄に書名を書きます。ビンゴゲームのように、縦・横・斜めに１列そろったら図書館に持ってきて、図書委員から手作りしおりなどをもらうようにしてみても良いでしょう。

(例) ビンゴカード

わたしと小鳥と すずと	手塚治虫	☆精霊の守り人
ひとしずくの水 (写真絵本)		草野心平詩集 蛙のうた
杉原千畝物語	☆西風号の遭難	ファーブル 昆虫記1

日頃子どもたちが手にすることが少ない詩、伝記などの本を、POPやビンゴカードを使って、子どもたちに紹介することで、読書の幅が広がることにつながると思います。

☆ そのほかの取組み

⑧ 生徒によるブックトーク・ビブリオバトルの実施

小学校の高学年や中学校・高校では、昼休みや放課後に標記の大会を行ってみるのはいかがでしょうか。また、取組みの様子や結果を図書館だより等で紹介しましょう。

※「ビブリオバトル」とは？ バトラーと呼ばれる発表者が面白いと思う本について５分間で紹介します。聞き手は判定者となり、読みたいと思った本の発表者に投票します。最も多くの得票数を獲得した発表者が勝者となります。京都大学の研究室から始まったと言われています。

⑨ POPコンクールの実施

全校の児童・生徒に呼びかけ、POPカードを作成させます。コンクール形式で優秀作に投票を行い、最優秀作を表彰するという方法もあります。また、内容のおもしろさや魅力を伝えるために、キャッチコピーやイラストを工夫してPOPカードを作ってみても良いでしょう。

⑩ 英語の本の読み聞かせ

外国語指導助手（ALT）にお願いして、読み聞かせをしてはどうでしょうか。「はらぺこあおむし」「ぐりとぐら」「はれときどきぶた」などの本は、英語版も出版されています。

⑪ 展示会の実施

POPカードを書き、カードと本と一緒に図書館前廊下に展示したり、ぬり絵やしおりを書いて展示します。

Hello! 学校図書館

今年度も、福岡市内の小中学校、特別支援学校を訪問し、図書館の様子などを紹介していきます。学校の図書館の運営や環境づくりなどの参考になればと思います。

《馬出小学校》

馬出小学校は、15学級、372名の学校です。たくさん子どもたちが図書館に来るように、そして、来たら自然と本を手に取りたくなるような工夫をしていました。図書館の中の環境を子どもたちと一緒につくるなど、すばらしい図書館をつくっています。

○ 楽しい図書館とを感じるような工夫



(図書館がある階の廊下に展示台を置き、周りに男の子や女の子などの切り絵を貼り、本の展示をしています。)



(図書館の出入口には、すのこの板に「馬出小とよしつへ ようこそ!」という言葉を貼り、図書ボランティアの方の写真も掲示しています。)



(図書館前方)



(図書館後方)



(図書館後方の壁に貼ってあるグリとグラの飾り)

(書架が全体的に低く、周りにぬいぐるみや折り紙で作った折鶴などを置いています。)



(図書カウンター後ろの棚の上にもぬいぐるみが置いてあります。)

○ 図書館で自然と本を手に取りたくなるような工夫



(白っぽい机の上には本を立て、
軽い椅子を置き、気軽に本を手
に取りたくなる雰囲気です。)



(書架の前に長椅子を置いています。)



(子ども達が書いた本の差し込み表示)

手に取った本をすぐに読めるように机の上に本を立てたり、
書架の前に長椅子を置いたりしています。



(絵本の前にやさしい雰囲気の
丸テーブル置いています。)



(床に座っても絵本を読めるように
しています。)



(図書館の本の並び方を
説明しています。)

♪ 福岡アジア美術館 「11月の案内」

* アジアの絵本と紙芝居の読み聞かせ：(11月)

12日(日), 14日(火), 26日(日), 28日(火)

(福岡アジア美術館での読み聞かせ)

・時 間：11:30~12:00 13:00~13:30

・場 所：7階「キッズコーナー」(申し込み不要)



♪ 福岡市総合図書館「11月の案内」

* 毎月のお話し会：(11月)

4日(土), 5日(日), 11日(土), 12日(日)

18日(土), 19日(日), 25日(土), 26日(日)

・時 間：土曜：14:30~(幼児向け)

日曜：14:30~(幼児向け), 15:15~(小学生向け)

・場 所：「こども図書館 おはなしの家」



11月生まれの文学者たち



川村 たかしと「新十津川物語」

1931年11月8日 奈良県五條市生まれ 2010年1月没

川村たかし氏は、奈良学芸大学（現 奈良教育大学）卒業後、五條市の小・中・高校の教諭、奈良教育大学・桜花女子大学の教授として教鞭をとりました。1968年「近畿文化」に寄稿したのを機に創作活動に専念し、1978年から88年にかけて「新十津川物語」（全10作）を刊行しました。

この「新十津川物語」は、明治22年8月、奈良県吉野郡十津川郷を襲った集中豪雨によって大規模な山崩れが発生したため、新しい土地を求め、奈良から北海道に移り住んだ人々の苦難の旅と生活を描いています。

この物語で、川村氏は、産経児童出版文化大賞並び日本児童文学者協会賞を受賞しました。また、1991年から92年にNHKのテレビドラマで放映されました。この放送をきっかけに北海道新十津川町は、同作品をテーマにした「新十津川物語記念館」を設立し、川村氏を名誉館長としました。新十津川ふるさと公園には、物語の主人公「津田フキ」の17歳当時をイメージした像、奈良県十津川村には9歳のフキの像、奈良県庁知事室には、フキの胸像があります。川村氏の作品は、国語の教科書に採用された「サーカスのライオン」の他に、「ツチノコ探検隊」「クジラと少年」など多数あります。



寺村 輝夫と「ぼくは 王さま」

1928年11月8日 東京都文京区生まれ 2006年5月没

寺村輝夫氏が物語のおもしろさに目覚めたきっかけは、小学校の時、女性の担任が『日本伝説民話集』を子どもたちに読み聞かせしたことです。その後、1940年、東京府立第一商業学校（現・都立第一商業高校）在学中に、海軍飛行予科練習生になりました。戦後、1946年早稲田大学に入学し、作家を目指しました。1949年早稲田大学卒業後、アルバイトをしたのち、出版社に入社し執筆を続けました。そして、1953年、「ねことてがみ」で作家デビューしました。

寺村氏の「ぼくは 王さま」シリーズの王さまは、たまごやきが大好きで、わがままで、なまけもの、そして、くいしんぼうです。1959年の王さまシリーズで最初の「ぞうのたまごのたまごやき」は、書いた原稿が2度没になりました。しかし、「あなたが面白いと思うものを書いていいんですよ」の編集長の一言で書きあげた原稿が、絵本化されました。

子どもの自由なイメージを刺激する奇想天外な発想や王さまの行動を通して象徴される風刺や皮肉の巧みさが注目され、ナンセンス童話の第一人者として活躍しました。また、1972年自宅を開放して、「王さま文庫」を開設しました。「ぼくは 王さま」は、「王さまでかけましよう」という題名で、国語の教科書にも採用されました。他にも、寺村氏の作品は、「わかつたさん」シリーズ、「わたしまじょです マヤイです」シリーズなど多数あります。

□ 図書館員のひみつの本棚 《No.138》

福岡市総合図書館 読書相談員の重村さやかさんが、毎月素敵な本を紹介してくださる
楽しみなコーナーです。

今回の本は、へそまがり、いじっぱりな魔女と、この魔女に「マジョドリ」と名付
けられ魔法を教えられた鳥との絵本です。絵本ですが、魔女と「マジョドリ」との話の
展開に、笑ったり、涙を流したりします。絵本ですから、話が短く、とても読みやすい
です。魔女や「マジョドリ」について、親子で感想を話し合うのにぴったりの本です。
ぜひ、読んでほしいと思います。

✽ 今月の本

『魔女のたまご』

マデライン・エドモンドソン／作 ケイ・シューロー／絵 掛川 恭子／訳
あかね書房 1978年 1512円

♪ あとがき ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

「秋の日暮れは、つるべ落とし」という、言葉があるように、一日一日と日が暮れるのが早くなっ
てきました。塾や中学校の部活動などで忙しいでしょうが、読書期間中は、短時間でもいいので、ぜ
ひ、本を手に取り読んでほしいと思います。

福岡市の総合図書館や区毎にある図書館では、借りるために順番待ちの本も、学校の図書館に
はあることも多いようです。

子どもたちには、話題となっている本や映画化された本なども、読んでほしいと思います。

この通信ではできるだけ色々な学校の読書活動例を紹介したいと思っています。

発 行： 福岡市教育委員会 生涯学習課

電 話： 711-4655 FAX： 733-5538

図書館員のひみつの本棚 第138回

10月31日はハロウィン🎃。今月は魔女の物語をご紹介します。

『魔女のたまご』

マデライン・エドモンドソン／作 ケイ・シューロー／絵 掛川 恭子／訳
あかね書房 1978年 1512円

<お勧め年齢>

乳幼児—— 低学年☆☆ 中学年☆☆☆ 高学年☆ 中学生——
高 校—— — 般——

(☆が多い年齢の子どもにお勧めです。)

<本の紹介>

アガサはすごく年をとったへそまがりの魔女。まいご山のとっぺんにあるワシの巣にたったひとりで住んでいます。友達なんかいません。仕事は町へ行って人々を怖がらせること。

ある晩、アガサが仕事で町へ行っている間に、お母さんカッコーがアガサの家にやってきて、置いていた肩掛けに卵を産んで、どっかへ行ってしまいました。

仕事からもどったアガサはびっくり！卵を産んだ鳥を探しますが、見つかりません。他の母さん鳥たちが心配して卵を引き取ると申し出ますが、人がほしがるものはあげたくないのがアガサの性分。なんとか自分で卵をあため、ヒナをかえし、マジョドリと名付けました。

大きくなったマジョドリは、アガサのたった一人の大事な友達になります。

けれども、秋が深まりだす頃、マジョドリはふさぎこむようになりました。心配したアガサに、マジョドリは自分も他の鳥のように南に旅立つことを告げます。

<子どもに手渡す時のポイント>

まもなく初版から40年を迎える物語ですが、今でも全く色褪せていません。ハロウィンが一般的となっている今の子どもたちには、この時期が手渡す一つのチャンスかもしれません。



このコーナーで紹介した本はお近くの図書館や書店に置いてあります。ぜひ手にとってみてください。

総合図書館 重村さやか